



発行／青森県立自然ふれあいセンター 〒038-1301 青森県青森市浪岡大字大釈迦字沢内沢 1-1
 TEL 0172-62-4527 FAX 0172-62-8510 URL <http://www.bonjyu-furesen.info/> メールアドレス bonjyu@jomon.ne.jp

□ 行事レポート □

●センター開設記念行事「赤沼ツアー」
7月3日(日)



●ファミリーデイキャンプ2022 in 梵珠山
7月16日(土)



●夏休みスペシャル・クラフト体験
7月23日(土)～8月21日(日)



●八幡岳トレッキング
8月28日(日)



●秋の梵珠山トレッキング サワグルミの道～山頂～ブナ岱～アカゲラの道
9月25日(日)



● サラシナショウマ

齋藤 信夫 (青森自然誌研究会)

サラシナショウマは北海道から九州にかけての低山帯から亜高山帯に生育する。梵珠山ではサワグルミやトチノキなどが覆う沢すじや傾斜の緩やかな湿った斜面に群生しており、特に、六角堂付近で目立つ。六角堂付近の林床は毎年定期的に草刈りが行われているが、夏以降の草刈りでは、ときどき蕾をつけた数個体のサラシナショウマが選別されて残され、花の時期には独特の花穂を伸ばしている光景を目にする。

サラシナショウマを初めて見た時、何とエネルギー感溢れる植物なんだと感銘した。それほど太くもない茎で、高さ2mほどにも生長するし、花の時期には試験管ブラシのような穂状の長く白っぽい花のかたまりをくねらせる。花穂は小さな花が沢山集まっていて、長さ20~30cmほどで、直径だって2cmほどにもなる。そんな大柄な植物がやや湿り気のある木陰に、よきよきと乱立するのだから、つい目が行ってしまう。花穂の白さは木漏れ日を受けるとさらに引き立つ。サラシナショウマの花穂の雰囲気は私の感覚ではシウリザクラの自由奔放な飛び出し方と似ている気がする。

花穂を作っている小さな花を覗き込むと、結構込み入って見えるタイプと、割と透けて見えるタイプがあることに気づく。もし、その辺に気づいたとしたら、その人の観察眼は鋭いと言える。そうなのだ、サラシ

ナショウマの花には二つのタイプがあるのだ。前者には雌しべと雄しべの両方があるものの、後者では雄しべしかないのだ。この植物がどういう理由で二つのタイプの花をつけるようになったのかは謎だ。それにしても、進化の神はまったく気まぐれで、時々面白い演出をしてくれる。

4月下旬になるとサラシナショウマはうつむき加減に地面から飛び出してくるが、その時はまだ葉が綺麗に折りたたまれていて、秋のような大柄な姿になることは想像もつかない。8月前後で花穂の下の蕾からほころびはじめ、開花の号令は次第に先端へと伝わっていく。個体によって開花に差があり、10月頃でも花をつけている場面にも会う。そんな状態で晩秋・初冬になるが、10月下旬になると長さ1cmほどの袋状の果実がたくさんついている穂状の花穂になり、熟した頃には袋の一部が破けて中からリン片のような飾りをつけた種子がこぼれ落ちるのだ。その頃の果穂はまるで蜂の巣を思わせるような姿である。

サラシナショウマを図鑑などで調べると、若い葉は水にさらして食べると記載されているが私はまだ食べたことはない。水にさらした後に食べるということは、きっと癖のある山菜なのだろう。キンポウゲ科の仲間では山菜となる例は多くない。



サラシナショウマの花穂
(2012年10月14日)



サラシナショウマの花穂と若い果穂
(2021年9月17日)

生物ごよみ(昨年)		10月												天気		℃: 日最高気温 (月最高気温)		低: 日最低気温 (月最低気温)													
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
観	ツリフネソウ・イヌタテ	アキノウナギツカミ	マヒワ群れ	エルタテハ・シータテハ	ナギナタコウジュ	ツミ・ヤマガラ	カケス・カワガラス	ゴジュウカラ	クマタカ	キシバト・クサギカメムシ	ツノアオカメムシ	ルリボンシヤンマ	ヤマガラ・コゲラ	アナゲマ	ホンドギツネ	マユミ・ミゾンバ	ガマズミ	ヒガラ・エナガ	ウグイス	アサギマダラ・ニホンザル	ジョウビタキ	タヌキ・コマドリ	ホオジロ・ゲンノショウコ	ミカドフキハッタ	ママコノシリヌグイ	ホンドテン・ヘニマシコ	ホオジロ・アカゲラ	エナガ・オオトビサシガメ	ヒヨドリ・アカゲラ	ツノアオカメムシ	オジロフシ・カヤクグリ
天	☔	☁	☀	☀	☔	☀	☁	☁	☀	☀	☔	☀	☀	☀	☀	☔	☔	☁	☀	☁	☔	☔	☔	☀	☀	☀	☁	☔	☁	☀	☁
℃	20	21	23	29	21	18	18	19	20	26	23	18	19	19	15	13	12	12	16	15	9	13	7	16	19	14	16	15	14	15	17
低	15	13	9	12	14	8	7	12	8	9	11	8	10	9	7	7	4	3	3	8	5	4	4	5	7	8	7	6	5	4	5

●斑点米カメムシのふる里を尋ねて

市田 忠夫 (津軽昆虫同好会)

稲の穂は早朝に開花します。自家受粉で結実しますので、突然変異でも起こらない限り、「つがるロマン」の苗を植えれば、形質は遺伝します。これは、農業的には都合が良い性質といえます。米は人が食べても美味しいものなので、各種害虫に攻撃されます。田植え直後には、初期害虫と呼ばれる、イネドロオイムシやイネミズゾウムシに葉や根を食害されます。稲の穂が出る頃には、カスミカメムシという、小型で、カメムシとしては、体がやや軟らかいカメムシが若い米の汁を吸うために、水田に飛来します。最も個体数が多いのは、アカヒゲホソミドリカスミカメで、この種は、名前通りの形態をしています。その他にはアカスジカスミカメという種類がいて、こちらは私が農林総合研究所の、病中部にいた頃には、試験場の圃場では、見られないものでした。

話は急に変わりますが、私はもともとカメムシが好きで、特に湿地にいる仲間の興味があり、六ヶ所村の尾駸沼に良く調査に行っていました。長靴でないと、入れない湿地帯で、網を振り回していたら、アカスジカスミカメが次々に網に入ってきました。稲科植物の穂から汁を吸っているに違いありません。網をしまつて、稲科植物を見回っていると、細長い棒状穂の植物にアカスジカスミカメがいました。植物はカモノハシです。カモノハシは、穂が円柱状で、力を加えると、穂が2つに割れます。それが、鳥のカモの嘴に見立てた名前です。カモノハシの仲間は砂地でも見たことがあったので、翌週深浦町に行ったところ、海岸砂丘のケカモノハシにアカスジカスミカメ、を見つけることができました。



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

生物こよみ (昨年)				11月				☀️☁️☔️: 天気		℃: 日最高気温 (月最高気温)		低: 日最低気温 (月最低気温)																			
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
曜	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
観	オ	ツ	モ	ヤ	ル	ア	シ	ク	コ	ア	コ	ツ	タ	ウ	ホ	カ	カ	ノ	オ	ゴ	ア	イ	ア	オ	ヤ	ホ	エ	シ	コ	カ	
察	ツ	リ	ン	マ	リ	キ	シ	マ	ケ	カ	カ	ミ	ゴ	ソ	オ	シ	モ	コ	オ	ジ	カ	カ	オ	マ	ン	ン	ナ	シ	ケ	カ	
で	ネ	フ	キ	ド	リ	ノ	ユ	タ	ラ	タ	ラ	・	ガ	・	シ	ラ	シ	・	ス	ウ	ケ	リ	ス	カ	カ	ド	ナ	ユ	ケ	カ	
きた	ソ	ネ	チ	リ	ボ	ウ	ウ	カ	ハ	ハ	・	・	エ	・	ラ	タ	カ	・	メ	カ	ラ	ン	カ	カ	カ	テ	カ	カ	ラ	カ	
もの	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
天	☀️	☀️	☀️	☁️	☀️	☀️	☀️	☀️	☁️	☁️	☁️	☁️	☀️	☁️	☀️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☀️	☁️	☁️	
℃	17	18	16	15	14	16	15	19	17	14	9	8	10	12	11	9	10	15	15	10	10	13	7	3	2	2	4	8	8	13	
低	7	8	7	6	5	5	3	7	9	8	6	5	5	6	5	2	0	0	6	2	2	5	1	1	1	0	0	-1	1	2	

● ヤナギトラノオ【柳虎ノ尾】サクラソウ科

長尾 キヨ（津軽植物の会）

ヤナギトラノオと初めて出会ったのは、今から50年位前屏風山湿原である。ヨシやウキヤガラの群落の下に、鮮やかな黄色い花が集まり辺りを明るく華やかに彩っていたのを忘れることができない。

県立自然ふれあいセンターのトンボ池周辺の沼に小群落があり、最盛期はなかなか見応えがある。しかし、最近ヨシの勢いに負けて数をへらしているのが心配である。

和名は柳虎の尾で、葉がヤナギに似て花が虎の尾に似ていることから名付けられた。

高さ30cm程になる湿地に生える多年草。地下茎は長く泥中を這ってひげ根を出す。茎は円くて直立しほとんど枝を出さない。葉は対生し柄がなく長楕円形で先がとがり、柔らかい。花は6～7月頃茎の中部の葉腋から、ころんとした円筒状の花序を出して黄色の小花が多数集って咲く。好きな花の一つである。

サクラソウ科の花はふつう萼と花冠は5裂するのだが、ヤナギトラノオは萼と花冠が6裂するという変わりものなので、不思議だなあと思うのは私だけではないと思う。

本州中部以北～北海道・千島・樺太を経て北半球に広く分布する北方系の植物である。本州の湿原では稀に見られるものであるが、屏風山湿原・岩木川下流川原・十二湖の湿原にも分布している。

『津軽の茶花』では、「ヤナギトラノオは珍しい花なので、茶花にしても立派なご馳走になるのですが、数の少ないもので適期に採集すること自体がむずかしく、やはり一般には使用困難な花と言えます」と述べている。

花のない時期は、かなり目の肥えた人以外は、ヤナギトラノオだと気付かないと思う。是非、最盛期目がけて見に来てほしいものです。



生物ごよみ (昨年)		12月												天気		℃: 日最高気温 (月最高気温)		低: 日最低気温 (月最低気温)													
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
観	エナガ	クマタカ・ヤマガラ	ホンドギツネ	ヤマガラ・シジュウカラ	ホンドテン	カモシカ (足跡)	トウホクノウサギ (足跡)	カワガラス・カケス	エナガ・カケス	フクロウ・コガラ	ニホンザル・ヤマドリ	ホンドテン (足跡)	ホンドギツネ	タヌキ (足跡)	ヒヨドリ・ニホンリス	ゴジュウカラ・ミンサザイ	タヌキ・ホンドテン (足跡)	コゲラ・コガラ	ホンドテン	ミンサザイ・カワガラス	ヒヨドリ・シジュウカラ	コゲラ・カケス・エナガ	カモシカ (足跡)	ベニマシコ・アカゲラ	カワガラス・アオゲラ	ニホンザル (群れ)	エナガ・シジュウカラ	休館日	休館日	休館日	休館日
天	☂	☀	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☀	☀	☀	☂	☁	☁	☂	☂	☂	☂	☂	☂	☂	☂	☂	☂	☂	☂	☂	☂	☂	☂	☂
℃	11	3	11	4	1	4	9	6	10	9	11	8	1	6	7	4	5	-3	-1	1	4	1	-1	-1	-4	-4	-5	-4	1	1	-5
低	0	-2	3	-2	-2	0	1	1	-1	-3	-1	1	-4	0	1	0	-5	-7	-4	-3	-3	-3	-3	-4	-8	-9	-6	-6	-4	-5	-8